

エコレザー対談



壁には先代の駒井盛利社長に贈られた勲五等瑞宝章の賞状と勲章が

駒井社長(以下駒井)
創業は1952年(昭和27年)3月で、今年で68年目になります。創

業は14年前に亡くなった父の駒井盛利で、娘の私が2代目です。私が入社したのは1992年で、28年目になります。入社前はアメリカの州立オレゴン大学で数学の統計学を専攻する学生でした。卒業後に自分から希望して山市商店に入りました。会社では早い段階から原皮の仕入れを行っており、国内の原皮商だけでなく、海外からも直輸入していたので、入社当初は貿易部門に所属し、仕入れ交渉に英語力を生かすことができました。

業者は14年前に亡くなった父の駒井盛利で、娘の私が2代目です。私が入社したのは1992年で、28年目になります。入社前はアメリカの州立オレゴン大学で数学の統計学を専攻する学生でした。卒業後に自分から希望して山市商店に入りました。会社では早い段階から原皮の仕入れを行っており、国内の原皮商だけでなく、海外からも直輸入していたので、入社当初は貿易部門に所属し、仕入れ交渉に英語力を生かすことができました。

業者は14年前に亡くなった父の駒井盛利で、娘の私が2代目です。私が入社したのは1992年で、28年目になります。入社前はアメリカの州立オレゴン大学で数学の統計学を専攻する学生でした。卒業後に自分から希望して山市商店に入りました。会社では早い段階から原皮の仕入れを行っており、国内の原皮商だけでなく、海外からも直輸入していたので、入社当初は貿易部門に所属し、仕入れ交渉に英語力を生かすことができました。

業者は14年前に亡くなった父の駒井盛利で、娘の私が2代目です。私が入社したのは1992年で、28年目になります。入社前はアメリカの州立オレゴン大学で数学の統計学を専攻する学生でした。卒業後に自分から希望して山市商店に入りました。会社では早い段階から原皮の仕入れを行っており、国内の原皮商だけでなく、海外からも直輸入していたので、入社当初は貿易部門に所属し、仕入れ交渉に英語力を生かすことができました。

業者は14年前に亡くなった父の駒井盛利で、娘の私が2代目です。私が入社したのは1992年で、28年目になります。入社前はアメリカの州立オレゴン大学で数学の統計学を専攻する学生でした。卒業後に自分から希望して山市商店に入りました。会社では早い段階から原皮の仕入れを行っており、国内の原皮商だけでなく、海外からも直輸入していたので、入社当初は貿易部門に所属し、仕入れ交渉に英語力を生かすことができました。

業者は14年前に亡くなった父の駒井盛利で、娘の私が2代目です。私が入社したのは1992年で、28年目になります。入社前はアメリカの州立オレゴン大学で数学の統計学を専攻する学生でした。卒業後に自分から希望して山市商店に入りました。会社では早い段階から原皮の仕入れを行っており、国内の原皮商だけでなく、海外からも直輸入していたので、入社当初は貿易部門に所属し、仕入れ交渉に英語力を生かすことができました。



佐也佳さんが手掛けた“グラデーション”

さとみ
駒井 公美氏
(山市商店 代表)

駒井 佐也佳氏
(山市商店)

稲次 俊敬氏
(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

原皮の直輸入とともに
衣料革を主力に展開

デリケートな手触り・風合い・色調の
「水染めソフト革」を開発、国内外に販売

稲次 今月号の座談会は大阪市
大田町の皮革卸・山市商店の駒井
公美社長と、昨年入社された娘さ
んの駒井佐也佳さんにご登
場いただきました。単なる革卸
にとどまらず、原皮の直輸入も
行っています。また、欧米の皮
革情報や市場の動きに対応し
て、海外へも革を供給してい
るユニークな会社です。初めに
社歴からお話し下さい。

業者は14年前に亡くなった父の駒井盛利で、娘の私が2代目です。私が入社したのは1992年で、28年目になります。入社前はアメリカの州立オレゴン大学で数学の統計学を専攻する学生でした。卒業後に自分から希望して山市商店に入りました。会社では早い段階から原皮の仕入れを行っており、国内の原皮商だけでなく、海外からも直輸入していたので、入社当初は貿易部門に所属し、仕入れ交渉に英語力を生かすことができました。

業者は14年前に亡くなった父の駒井盛利で、娘の私が2代目です。私が入社したのは1992年で、28年目になります。入社前はアメリカの州立オレゴン大学で数学の統計学を専攻する学生でした。卒業後に自分から希望して山市商店に入りました。会社では早い段階から原皮の仕入れを行っており、国内の原皮商だけでなく、海外からも直輸入していたので、入社当初は貿易部門に所属し、仕入れ交渉に英語力を生かすことができました。

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値以下
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



<http://japan-ecoleather.jp>



稲次氏

判ものも扱っています。海外との取引先の中には、60年ほどの付き合いの会社もあり、毎年クリスマスカードを交換するなどの関係は続いています。

小判ものを扱っていた関係から、先代は大阪羊革商業協同組合（一昨年解散）、大阪革商資材協会連合会や大阪油脂革商業協同組合の理事長を10年以上させていただきましたが、こうした業界への貢献から、2001年（平成13年）には勲五等瑞宝章をいただきました。

水染めの“二加脂”加工で 柔らかな革をつくり出す

稲次 こだわっていることは、どのようなことでしょうか？

駒井 先代から始めた水染め革が看板です。これをタンナーさんと共同開発する過程では、数々の苦労があったようです。弊社の革は姫路のタンナーさんが行う“二加脂（いちかし）”ではなく、サンドイッチと言われる“二加脂（にかし）”加工をしています。こうすることで、革の芯までしっかりと脂が入り非常に柔らかな革になります。

衣料革を主力とした頃は、体になじむようなソフト革を目指しました。水染めの特徴は素上げであり、化粧（仕上げ）をしていないことです。特に黒い革は100%素上げです。水染め革は早い時期から韓国、中国、東南アジアに輸出しており、そこで生産された製品はアメリカ市場に輸出されていました。

稲次 水染めは革産地の池田（兵庫県、業界では川西ではなく、“池田もの”）といわれていたで作られていました。川西産は40年前から海外にも人気があり、今でもよく求められています。これは、水染めのソフトな革という独特の技術があるからです。各工程における温度、時間、pHなどの管理を見誤ると皮が溶けて無くなってしまう恐れがあり、他地区のタンナーではやっています。

駒井 かつて川西地区で行われていた水染めをしているタンナーは、現在数軒しか残っていないでしょう。水染め革は裏（肉面）側までよく染まっているので、そのままエードとして使えます。アパレルのなかには、スエードの良さも認め

てくれて、銀面とスエードを組み合わせて使っているところもあります。

今では衣料だけでなく、バッグや手袋、帽子、靴と多岐にわたって使われています。

水染めの革は素仕上げであり、色落ちが課題になりますが、現在アメリカのレザーウェア会社に販売している革は、色落ちしにくいものを開発し、多色で扱ってもらっています。

日本エコレザー認定は 5年間で35点に

稲次 日本の消費者は色落ちに敏感です。また、キズに対してもチェックが厳しいですね。

駒井 そうですね。アメリカ市場では色落ちについては、それほど言われません。それよりもデザインしやすいソフトな革であるとか、汎用性が重要視されます。この革も、これから日本エコレザーの認定取得を目指して、申請をしようと思っています。

稲次 山市商店さんは、現在まで



駒井社長



駒井佐也佳さん

に多くの日本エコレザーの認定を取得しています。きつかけは？

駒井 全国の百貨店のほかに海外でも販売しているアパレルのレナウンさんが、エコレザーに興味を持たれ、エコを全面に出した製品を作ろうということになり、縫製メーカーのヴァードさんも加わり、一緒に製品化に取り組んだのが、日本エコレザーの認定取得のきっかけでした。

それは2014年のことで、これを機会にバッグや手袋でもエコレザーに興味を持っていただき、毎年認定取得に挑戦した結果、認定点数が35点まで増えました。

稲次 現在、製品を除いた日本エコレザーの革の認定総数は500点ほどあります。この内、御社だけで35点も取得されているのです。全体の7%を占め、トップクラスの数字です。

認定基準の中には染色堅ろう度もあり、安心・安全な革であることが、差別化する上での強みとなっています。メイド・イン・ジャパンを打ち出す製品メーカーにとって、有力な切り口になります。

水染め技術を継承し 市場ニーズに沿った素材を

駒井 世界が情報面でもこれまでより狭くなっている今日、川西風の水染め技術を継承し、国内外にも売っていくことは大切だと思います。

ファッションが速いテンポで変わっているので、革も現場の声を反映して開発していくことが重要で、この点では、弊社は革問屋ですが協力工場を持ち、モノ作りから手掛けていることは強みになっています。

先日もアパレルのオーナーデザイナーの方が工場まで来られ、次に出す黒のイメージを打ち合わせました。黒といっても多くの種類があり、シーズンによって売れるものと売れないものがあるそうなので、そうした情報交換がとても大切なのです。

稲次 黒の染色は難しく、それを克服すれば、他の色は比較的大丈夫とも言われます。ところで昨年5月に入社された娘さんの佐也佳さんは、色彩検定で1級の資格を持っていらっしゃるそうですね。色の提案

で資格が力になっていますか。

佐也佳 現在、稲次さんから紹介された、革に関する講習会などで、革の勉強をしています。革は奥行きのある天然素材で、一枚ずつ違っており、色の入り方や風合いも革や部位によって違うなど難しいこともありませんが、革を見るのは楽しいですね。

色はファッションや景気に左右されますが、染色では、いかに素上げ感覚に近づけるかを心がけています。いま、「グラデーション」という自分で手掛けた、トレンドを入れた多色構成のシリーズを提案しています。

駒井 娘に日頃から言っているのは、時代が変わり、ファッションが変わっていても、手抜きをしない水染め技術を、一貫して次世代も継承していつともraitたいということですね。

これまでは柔らかい革としてやってきましたが、今は芯があり、適度に張りのある革が求められています。こうした時代のニーズに合わせた展開をしてみたいと考えています。